

平成23年度 福井型コミュニティ・スクール推進事業実施報告書

私たちは地域の教科書, 地域の先生とともに学びます

越前市坂口小学校・武生第二中学校坂口分校・越前市坂口幼稚園

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	12回
地域及び家庭への学校公開	3回3日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	35人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	0人
登下校支援ボランティア	0人
その他 ()	0人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

テーマ 「ふるさとを愛し、心豊かに、生き生きと活動できる子を育てる ―地域の人や自然との関わりを通して― 」

5月13日、爽やかな五月晴れの日、地区振興会環境部会のおじいさん、おばあさんやお母さん、おばあちゃんも手伝っていただき、がんばって1反ほどの冬水田んぼに餅米の苗を植えた。「足が抜けない！」と叫んでいる大人を横目で見ながら、慣れたもので子どもたちはサッサと植えていた。「ヒル！」という大きな声もアチコチからしたが、「午後だから当然。」と言って気にしない子どもが多かった。

1時間程度で植え終わり、集まって感想を述べ合った。子どもたちは、ドロだらけになったことよりしっかり植えたこと、餅つきが楽しみなことなどを述べていた。周りの大人の人もひとしきり感心していた。体験的活動で子どもたちは感化され、感想交流も一人一人の間で深まることができ、全校で取り組む田植えは7年目を迎えている。

9月14日の暑い日に稲刈りをした。全校児童18名と教職員7名、地区の振興会環境部会の皆さん、そして坂口公民館やエコビレッジの職員の皆さん、合わせて総勢35名がヒエやアワが混じった稲刈りに挑戦した。最初1年生にも鎌を持たせておばあさんに教えていただいた。危なっかしい手つきだったのが要領を覚えて上手に刈れるようになったのは、本当におじいさんやおばあさんのおかげが大きかった。約2時間の挑戦の後の感想交

流で、聞いている地区の人から返す言葉がなかったのが残念だったが、「昨年の田んぼより浅く歩きやすかったけれど、ヒエやアワの方が多くより分けて刈るのは大変だったなあ。」などと1年生から6年生までがしっかり感想交流できたことは、何よりの収穫であった。このように地区を巻き込んだ体験的活動を中心にすえた本校の里地学は确实



に進んでいる。

12月17日(土)に、はさにかけて乾かし、モミをとった稲わらを使ってしめ縄づくりをした。この活動は今年で6回目となる活動だが、今までは子どもたちだけで作っていたのを、時間的に効率化したいことと親の学び(親学)にもつなげたいと考え、今回初めて親子で実施した。最初、地区に住むゲストティーチャーの先生から手ほどきを受け取り組んだが、親の学びは1年目ということもあり、子どもたちの方が上手にできている親子が多かった。兄弟一人一人とその親でそれぞれに作っていることから、1家に2つも3つもしめ縄ができた家族もあり、全部で60ものしめ縄ができた。聞くところによると親戚縁者におすそ分けされるとか、家だけでなく土蔵や倉にも飾るとか。なにはともあれ、親子の絆が強まった一日だった。



次は1年のしめくくりの餅つき大会である。1月20日に、エコビレッジを会場にして餅つきでの交流会を開くことができた。子どもたちではかしぐことも蒸すこともなかなかできないことから、お世話になった地域の人や幼稚園児のおじいさん、おばあさんを招待しておきながら、申し訳ないという思いで準備や後始末などに手伝っていただいた。しかし、みなさんわかっている様子で、子どもたちは餅つきの場面からの出番だった。いっしょに食べる時は、最初は食べるのに一生懸命でなかなか話がはずまなかった様子だったが、食べ終わるころになると隣同士になったよしみで話すようになっていた。食べ物是人と人との間を仲介することを実感した。感想交流のシーンでは、幼稚園の子から小学6年生、そしてエコビレッジの指導員さんの話をゆったりと聞くことができた。暖かいお餅が心を豊かにしてくれたようで、このような感想交流がずっと続いていることに感謝したい。

ところで8月18日、坂口校の近くの田んぼに、コウノトリが舞い降りた。大きい。みんなが取り組んでいる里地里山保全再生活動の成果だろうか。ご褒美に来てくれたような気がした。



成果と課題

(1) 成果について

7年目の米作りも、エコビレッジや地区振興会環境部会との協働で餅米栽培などを計画的に実施することができ、お互いにWin-Winの関係がさらに深まってきた。

(2) 課題および次年度に向けて

本校は、子どもが「地域で育ち、地域に生きる」実践を幼・小・中12年間積み重ねるとともに、学校が地域での環境や福祉の拠点となるよう取り組んでいきたい。